

辺野古座り込み10年目

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を断念に追い込むため、辺野古の米軍キャンプ・ショワフのゲート前で2014年7月7日から続けられている座り込みが10年目のたかいに突入しています。

(国泰蘭)



「日本が戦争にならないように」

「かー埋め立てやあい ライシ
ヨイシ」——7月、ゲート前に琉球民謡「國頭サバクイ」の節に乗せた歌とはやしが響きました。14年7月、当時の安倍政権は新基地建設の関連工事を強行。この日で座り込み開始からの周年となりました。

この間、新型コロナの急拡大で大きな集会は中止されていますが、この日も雨の中集まつた20人の姿がありました。国頭サバクイを歌ったのは寧古田出身の芳沢あきさん(33)。大阪や鳥取で約50年暮らした後、昨年、辺野古に移住し毎日ゲート前に通います。

芳澤さんは、手書きで「ねばあは君たちのために座る」と大書いた服を身に着けています。ゲート前で向かい合った警備員や機動隊員へのメッセージだと聞います。

「國頭のために座り込んでいるんじゃないよ」とやりてらるひを分かってもらえたならと思います」

7/25 木

辺野古座り込み10年目



県内外から駆け付け、座り込みに参加する人たち=7日、沖縄県名護市辺野古

全国と連帯 憲法取り戻す

一面のつづき

20年前、当時大阪に住んでいた芳沢あきさん（墓地）

力込め「たたかいはまだ」

もうかけはーとの5年に沖縄で起きた米軍による少女暴行事件。大阪で沖縄の基地問題が全く知られていないと感じたことが立ち上がりにつながりました。

会の活動スタイルは、一人でも駅頭などに立ち、沖縄の基地問題について書いたり、配ることです。ほぼ毎週ピラを配り続けながら、仲間が増え、他府県を含め20カ所に活動が広がりました。

「頑張り続ける姿を見せる」と、日本も変わっていくんじゃないか。芳沢さんは「ない平和で豊かな沖縄をめざす会」を立ち上げました。

もうかけはーの5年に沖縄で起きた米軍による少女暴行事件。大阪で沖縄の基地問題が全く知られていないと感じたことが立ち上がりにつながりました。

政府が新基地工事の埋め立てに着手できない大浦湾には、水深90㍍に達する軟弱地盤が存在します。埋め立てには、世界とも例のない大規模な地盤改良工事が必要になります。「政府も新基地がで

る根柢には、日本の異常な対米従属があります。日米安保条約を日本国憲法よりも優先する政治によって、住民の民意や人権が切り捨てられる理不尽さは沖縄だけの問題ではありません。瀬長さんは、「全

くないことは分かっているはず。しかし、反対しても無駄だと思いつぶやく。ただ農民の意図を変えてさせるために工事を强行し、巨額の税金をつぎ込むうとしている

その思いは今も変わらません。座り込みの日常を全国に発信し、沖縄の問題を人ひとせずと考える人を広げていきたいと話します。

山内慶一さん（73）＝読谷村（よみたんそん）＝は、「工事を一分一秒でも遅らせ、引き下げるわけにはいかない」と5年前から通い続けています。

県知事選などで「新基地」に着手できないといかない」との庄倒的民意が何度も示されています。

それでも工事が強行され続けます。

「この庄倒的民意が何度も示す。しかし、反対しても無駄だと思いつぶやく。ただ農民の意図を変えてさせるために工事を强行し、巨額の税金をつぎ込むうとしている

る。絶対に負けられない」

沖縄県統一連の瀬長和男事務局長は「日本が独立した主権国家であれば、新基地建設は早い段階で中止になって当然だったはずです」と振り返ります。